

リラクタンストルク応用電動機の技術に関する調査専門委員会 設置趣意書

回転機技術委員会

1. 目的

リラクタンストルク応用電動機に関する調査専門委員会は、「制御用電磁アクチュエータの駆動システム調査専門委員会」（委員長：武田洋次、1994年7月—1996年6月）において一連の調査研究を開始し、以来、リラクタンس系モータを構造・制御両面から専門に扱う調査研究を継続してきた。これまでの調査研究の成果は技術報告及び産業応用フォーラムにて刻々と広く公開されている。しかしながら20年近くにもわたる調査研究結果をひとつにまとめたことはない。本委員会は、これまで長期にわたり精力的に調査研究した結果をひとつにまとめ、成果を広く国内外に発信することを目的とする。

2. 背景および内外機関における調査活動

これまでリラクタンストルク応用電動機について調査研究を行なった委員会は次のものがある。

「制御用電磁アクチュエータの駆動システム調査専門委員会」

（委員長：武田洋次、1994年10月—1996年9月、技術報告614号）。

「リラクタンストルク応用電動機と制御システム調査専門委員会」

（委員長：松井信行、1996年10月—1998年9月、技術報告719号）。

「応用面から見たリラクタンストルク応用電動機の開発動向調査専門委員会」

（委員長：森本雅之、1998年10月—2000年9月、技術報告833号）。

「特定用途指向型リラクタンストルク応用電動機の高性能化調査専門委員会」

（委員長：大山和伸、2000年10月—2002年9月、技術報告920号）。

「リラクタンストルク応用電動機の要素技術と高性能化調査専門委員会」

（委員長：森本茂雄、2002年10月—2004年9月、技術報告1020号）。

「実用面から見たリラクタンストルク応用電動機の用途別最適化技術調査専門委員会」

（委員長：本田幸夫、2004年10月—2006年9月、技術報告1080号）。

「リラクタンストルク応用電動機協同研究委員会」

（委員長：百目鬼英雄、2007年1月—2008年11月）。

「磁性材料の進歩とリラクタンストルク応用電動機の高性能化調査専門委員会」

（委員長：百目鬼英雄、2009年7月—2012年6月 技術報告出版予定）。

「脱レアアースとリラクタンストルク応用電動機に関する調査専門委員会（仮称）」

（委員長：小坂 卓、2012年7月— 設置計画中）。

海外ではこれほどまとまった調査研究は実施されていないと思われる。

3. 調査検討事項

- (1) リラクタンس系モータの技術全般に付いて取りまとめ、電気学会より和文書籍として出版する。
- (2) 同一内容の英文書籍として取りまとめ、出版計画を推進する。
- (3) 期間中の動向を調査し、要すれば新たな調査専門委員会を計画する。

4. 予想される効果

リラクタンストルク応用電動機についての専門書が出版でき、構造と制御が関連する電動機というこれま

での電気機器と異なる観点での専門書を完成することができ、産業応用部門の進化発展に寄与することが可能となる。

5. 調査期間

平成24年（2012年）5月～平成25年（2013年）12月

6. 委員会の構成（職名別の五十音順に配列）

職名	氏名	（所属）	会員・非会員区分
委員長	森本雅之	（東海大学）	正員
委員	大山和伸	（ダイキン工業）	正員
	小坂 卓	（名古屋工業大学）	正員
	武田洋次	（元大阪府立大学）	正員
	本田幸夫	（パナソニック）	正員
	松井信行	（元名工大）	正員
	森本茂雄	（大阪府立大学）	正員
幹事	百目鬼英雄	（東京都市大学）	正員

なお委員は公募等で最終的に10名程度を予定する。

7. 活動予定

委員会	3回/年	幹事会	1回/年
見学回	1回/年		

8. 報告形態

「リラクタンストルク応用電動機」 和文 を出版する。